

平成25年3月期
決算説明資料

平成25年5月14日

 川重冷熱工業株式会社

平成25年3月期 決算概要



平成25年3月期決算の総括

受注高は、東日本大震災後のエネルギー事情の変化によるガス空調の見直しにより空調事業が好調に推移し、前期比3億61百万円増加の164億95百万円、売上高は、前期比45百万円増加の159億94百万円となりました。

利益面では、ボイラの改修改造工事の受注・売上が減少したこと等が影響し、営業利益は、前期比1億58百万円減少の1億58百万円、経常利益は、前期比62百万円減少の1億88百万円となりました。当期純利益は、当社の関係会社である同方川崎節能設備有限公司(中国)の事業に係る特別損失として過年度に計上していた貸倒引当金が、同社の業績が引き続き好調であることから、特別利益として29百万円戻入されたこと、並びに前期のような税制改正に伴う法人税等の増加がなかったこともあり、前期比98百万円増加の1億12百万円となりました。

平成25年3月期損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	15,948	15,994	100.3%	
売上総利益	3,982	3,959	99.4%	
販売費及び一般管理費	3,665	3,801	103.7%	諸費用の増加等による
営業利益	316	158	50.0%	
営業外収益	37	90	243.2%	
営業外費用	103	60	58.3%	前年は環境対策引当金87百万円の計上有
経常利益	250	188	75.2%	
特別利益	19	29	-	
税引前当期純利益	269	217	80.7%	
法人税、住民税及び事業税	133	43	32.3%	
法人税等調整額	122	61	50.0%	
当期純利益	14	112	△ 800.0%	

川重冷熱工業株式会社



平成25年3月期貸借対照表

資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	8,733	8,405	96.2%	
現金及び預金	6	53	883.3%	
受取手形・電子記録債権 ・売掛金	6,439	6,328	98.3%	
棚卸資産	1,390	1,475	106.1%	
繰延税金資産	315	318	101.0%	
その他	580	229	39.5%	短期貸付金の減少による
固定資産	3,545	4,199	118.4%	
有形固定資産	1,587	1,878	118.3%	
無形固定資産	307	310	101.0%	
繰延税金資産	912	850	93.2%	
投資その他の資産	738	1,159	157.0%	関係会社への増資による
資産合計	12,278	12,604	102.7%	



平成25年3月期貸借対照表

負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動負債	5,788	6,231	107.7%	
支払手形・買掛金	4,352	4,032	92.6%	
前受金	49	138	281.6%	
未払金・設備支払手形	99	383	386.9%	固定資産の取得による
その他の流動負債	1,287	1,677	130.3%	短期借入金増加による
固定負債	2,538	2,363	93.1%	
退職給付引当金	2,397	2,225	92.8%	
その他の固定負債	141	138	97.9%	
負債合計	8,326	8,595	103.2%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,266	1,329	105.0%	
(内 当期純利益)	14	112	-	
自己株式	△ 17	△ 18	-	
株式等評価差額	12	9	75.0%	
純資産合計	3,951	4,009	101.5%	
負債・純資産合計	12,278	12,604	102.7%	

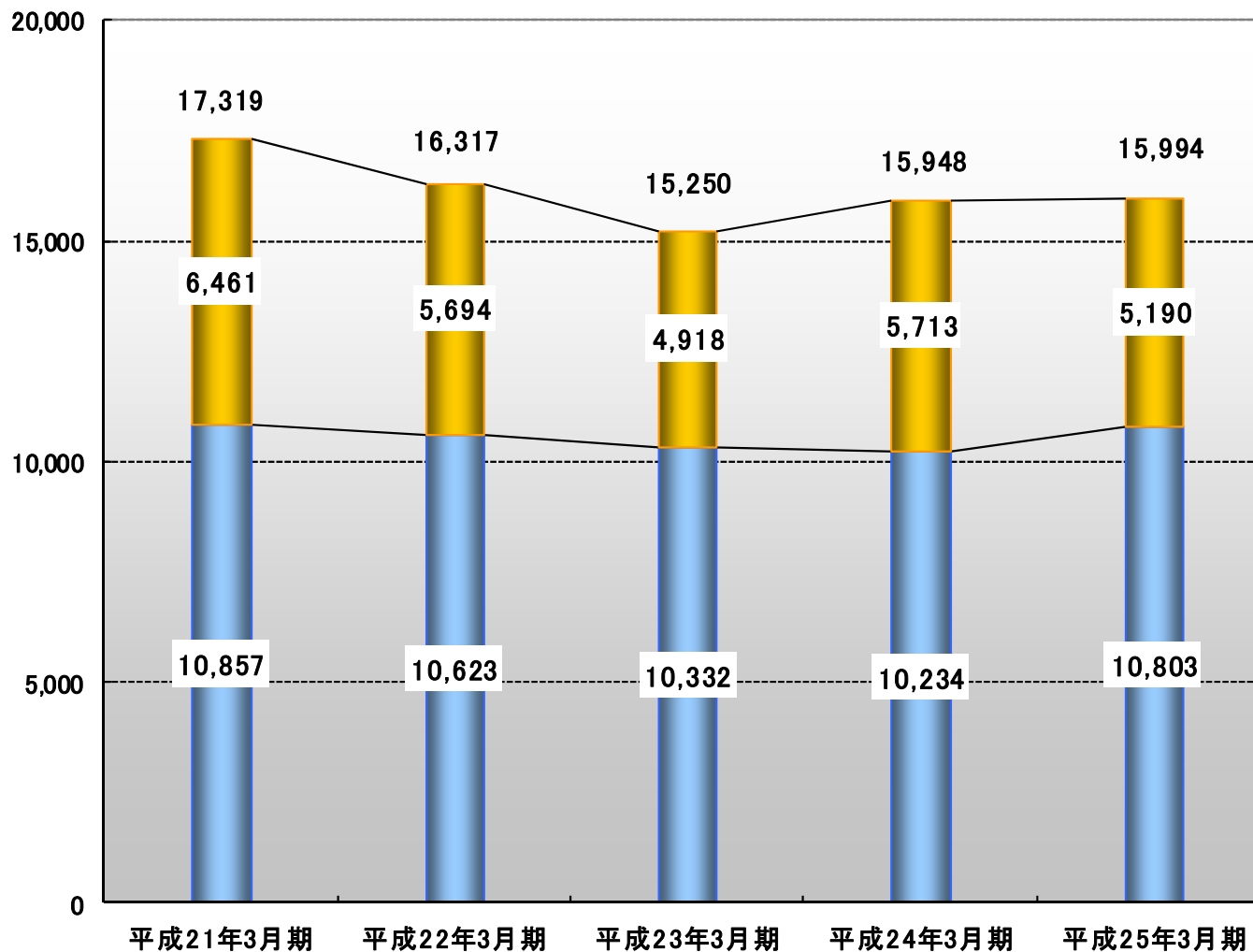
売上高の推移



(単位:百万円)

■ 空調事業

■ ボイラ事業

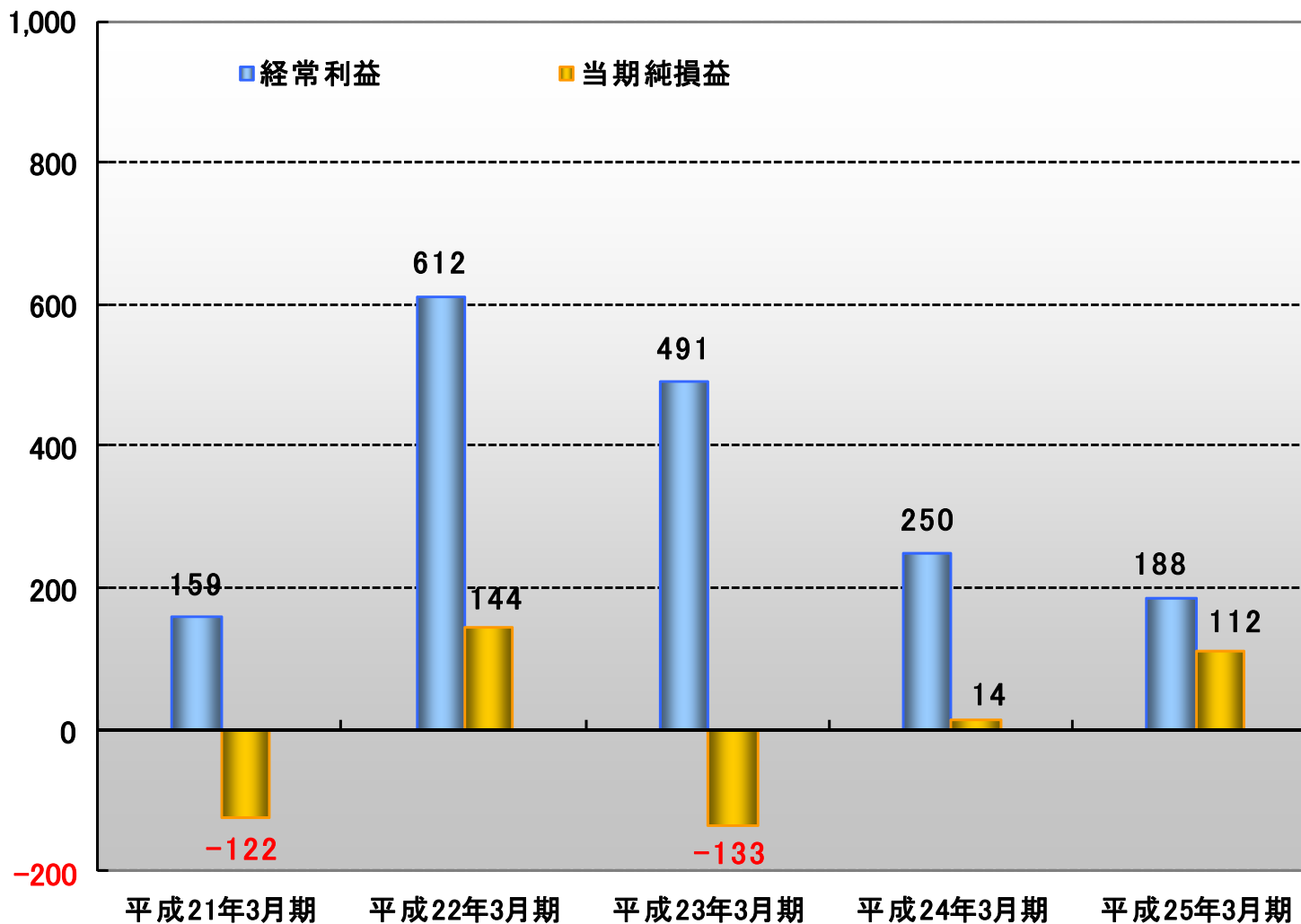


川重冷熱工業株式会社

利益の推移(予想)



(単位:百万円)

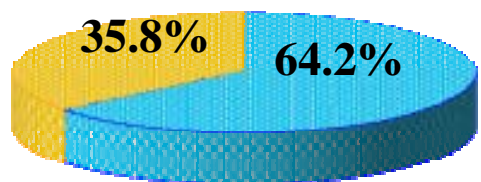


川重冷熱工業株式会社

売上高構成比の比較



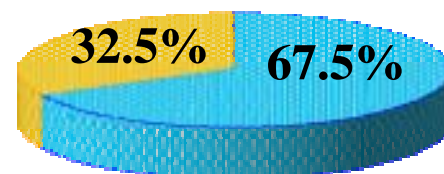
ボイラ事業



空調事業

平成24年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成25年3月期

事業区分別分析



空調事業

- ①機器本体の売上高は、大型吸収冷温水機の増加により、前期を大幅に上回りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの売上高は、前期とほぼ横ばいとなりました。

ボイラ事業

- ①機器本体の売上高は、大型の水管ボイラ、炉筒煙管ボイラが減少したことにより前期を下回りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの売上高は、震災復興需要等による大口工事が減少したため、前期を下回りました。

平成26年3月期 業績予想

平成26年3月期の業績予想



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	15,994	16,500	103.2%	
空調事業	10,803	11,000	101.8%	
ボイラ事業	5,190	5,500	106.0%	
営業利益	158	360	227.8%	
経常利益	188	350	186.2%	
当期純利益	112	200	178.6%	

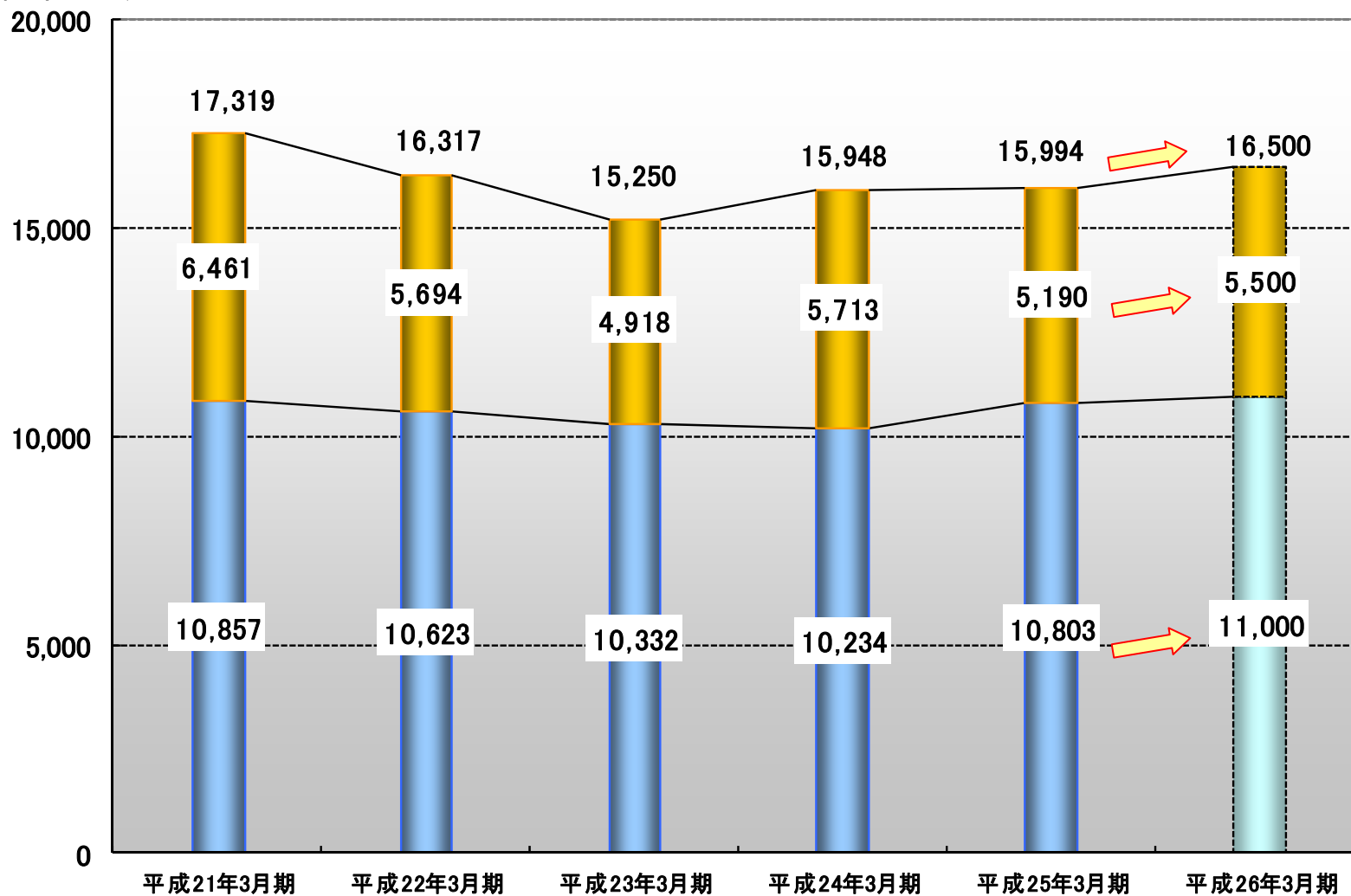
売上の推移(予想)



(単位:百万円)

■ 空調事業

■ ボイラ事業

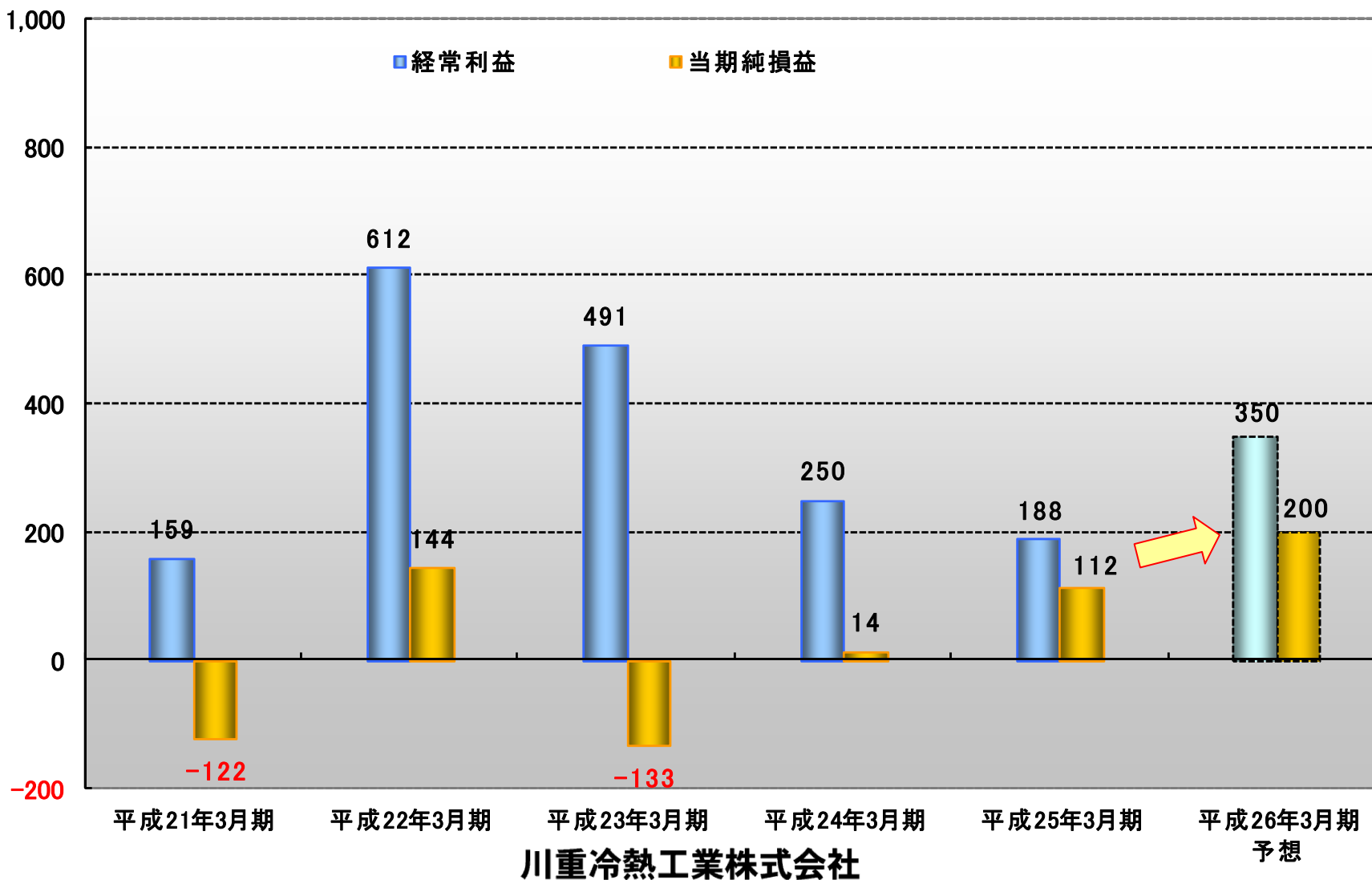


川重冷熱工業株式会社

利益の推移(予想)



(単位:百万円)



事業区分別計画



空調事業

①2013年4月より販売開始しております、二重効用吸収冷温水機として最高の定格効率を持つとともに、期間効率(年間を通じた省エネルギー性)・システム効率(空調システム全体での省エネルギー性)を向上した新型吸収冷温水機「エフィシオ」や、世界初の製品化に成功した「三重効用高効率ガス吸収冷温水機」、ガス3社と共同開発した太陽熱利用の「ソーラー吸収冷温水機」等の提案を行い、拡販に努めます。

②24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の活用および当社独自の「イーコップセイバー」等の省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの受注拡大に努めます。

ボイラ事業

①大型貫流ボイラ「イフリート」を中心とした機器ラインナップに加え、「油焚き燃焼ターンダウン5:1制御システム」や、大型貫流ボイラで初めて開発に成功した「VOC燃焼システム」や「排ガスO₂濃度制御システム」等の、お客様の省エネニーズに対応する製品を提供し、拡販に努めます。

②改修改造工事・メンテナンスは、定期検査、燃料転換や省エネ改造などの改修工事を中心とした工事の受注拡大ならびに年間保守契約の獲得向上に努めます。

参 考

当社の経営方針



当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、今後は電力使用の制約から電力ピークカット効果の高いガス空調が見直されていくものと思われれます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化が無いと思われれます。

空調・ボイラ業界共に、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび未利用エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われれます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。

川重冷熱工業株式会社